

～取り壊される校舎での最後の思い出づくりを～
小学校向けサポートプログラム



校舎の思い出プロジェクト

実施事例 川口市立前川小学校



2015年3月13日に、川口市立前川小学校にて、「校舎の思い出プロジェクト」を実施しました。



川口市立前川小学校でお話を伺いました



本校は図工の研究に力を入れており、日頃から子供たちがのびのびと表現できるような、自由に思い切り絵を描ける環境はどこかにないか、と考えていました。そのような時に、本校を建て替えることとなり、この機会をうまく利用できる、いい企画はないかと探していたところ、このプロジェクトを新聞記事から見つけました。

「壁は汚してはいけない」と教わってきた場所に描くということは、子供たちにとって衝撃的だったと思います。きれいに表現すれば、そこが素敵な空間になるということを学びました。子供たちが概念を打ち砕いていく、始めの一歩となったのではないかと思います。これから先、10年見越した時に素晴らしいプロジェクトだと思います。子供たちには、「昔、小学生の頃、新しい校舎ができたときには、こんなことをしたよな」と語り継いでいってほしいと思います。（矢作校長先生）



矢作校長先生



菊地教頭先生

子供たちの一番最初の反応は「本当に描いていいの？」でした。でも、描き始めるとみんな夢中になっていって、楽しくてどんどん止まらなくなり、先生方が終わりの合図を出せない雰囲気になっていました。また、各クラスの「思い出写真係」も撮影を楽しんでいました。クラスメートが撮っているから、撮られる子供たちもあまりカメラを意識しないのかもしれないですね。自然な表情がそのまま撮れていました。「普段できないことができる」子どもたちの思い出に残る、素晴らしい企画だったと思います。（菊地教頭先生）

最初、1年生が校舎の1階の外壁に素敵な木のつるを描きました。当初、他の学年は外壁に絵を描く事は考えていなかったのですが、その絵を見て「じゃあ、繋げましょう」となり、2階、3階へと絵を繋げていき、最後には3階大時計の周りに大きな花を咲かせていました。本校が図工の教育で大事にしている「発想の広がり」によって、作品をどんどん発展させ、みんなで一つの絵を作り上げました。

また、校舎とお別れに際し、「お別れ会」だけ行くと、そこまでの過程として、子供たち自身が校舎に絵を描いたり、校舎の好きな場所で写真を撮ったりした後で会に臨むのでは思いが全く違ってきます。これらの活動によって子供たちの校舎への思いがとても強まったと思います。お別れするのは寂しいけれど、「今までありがとう」の気持ちが、お別れ会を見ている感想発表や歌にあらわれていました。この企画に参加できて本当に良かったと思っています。（小濱先生）



小濱先生

プロジェクト作品



大判プリント作品



寄贈 べんてる株式会社
キヤノンマーケティングジャパン株式会社